

町立図書館 町史だより



―次世代への「メッセージ」―

今から六十四年前の一九四五年（昭和二十）、慶良間諸島の戦闘を皮切りに、およそ三ヶ月に及ぶ沖縄戦がはじまりました。私たちが住む西原村（当時）には、独立歩兵第十一大隊が西原国民学校（現在の西原中学校所在地）に駐屯し、日米両軍の激しい戦闘が繰り広げられました。住民たちは、戦火を逃れるために各地をさまよいました。当時の西原村の人口は一万八八一名、そのうち戦争で約五千名（四十七％）の人々が亡くなりました。

悲惨な戦争が終わりを告げ、沖縄がまだ本土復帰を果たしていない一九七一年（昭和四十六）、琉球政府から『沖縄県史』第九巻「沖縄戦記録Ⅰ」が発刊されました。同書は、沖縄戦の真実を見つめ直そうと、多くの体験者からお話を伺って編集が進められました。聞き取り調査に要した期間は、実に五年にわたり

ました。

そしてこの度、テープ八十八本、一五〇時間にも及ぶ貴重な録音テープが、沖縄県公文書館において発見、修復されました。テープには、西原村出身者五十七名の肉声が発音されています。町立図書館では平和教育、平和行政の推進に活用していかうと、テープの一般公開に向けて、当時の証言者、またはその親族の方々から承諾書をいただいています。町立図書館の職員がご承諾をいただきに伺う際には、ご協力をお願いいたします。

戦後六十四年が過ぎようとしている今日、体験者の「語り」は、後世に向けた重要なメッセージです。



戦争体験が掲載されている『沖縄県史』